

# 研究だより

令和8年9月 No.5  
校長 川中子 登志雄  
研究主任

「生徒の非認知能力の育成」  
ー生徒が『主語』の主体的な活動を通してー  
[本校学校ホームページ研究へのリンク先](#)(←タップ)

## 1. 困難に立ち向かえ！～主体的に取り組むからこそ悩み成長する～

「ピンチはチャンス」という言葉があります。「大変」とは“大きく変わる”と書きます。学習・行事・委員会・部活動・人間関係など、人は本気で取り組むと必ず悩めます。しかし、その悩みこそが成長の入口です。

本校の研究主題（タイトル下に標記）は、まさにこの「[困難と向き合い前に進む力（＝レジリエンス）](#)」を育てることを目指しています。主体的に取り組むか



からこそ壁にぶつかり、そこから自分の学びをつくり出すことができます。我々教員も4月から5回の校内研究会を行い、講話をきき、考え、議論し、できることは何か、足りないことは何かを考えながら進めています。主体的（逃げずに考え、選択し、責任をもつ）に取り組むからこそ、壁にぶつかるのです。「変化は成長の入り口である。」を合言葉に本校に関わる全てのみなで考えてみませんか。生徒のみなさんは、どんな大人になりたいかを考えながら、日々の学びを積み重ねていきましょう。

## 2. 振り返り（メタ認知⇔自己調整を行う）を粘り強く（繰り返し）

振り返りとは、なんでしょう。理科の実験のレポートに、「楽しかった。」などと書く生徒がいます。これは承知の通り感想です。振り返りとは、メタ認知と自己調整の繰り返しです。

さて、メタ認知とは、自分の状況を把握することです。例えば、実験結果が予想と違った、人と考え方が違うな、などです。自己調整力というのは、メタ認知をもとに次にどんな行動をするか考えることです。生徒のみなさん、すぐに答えを知りたいがる人いませんか。授業で説明してしまうような活動になっていませんか。私も含め……。このように粘り強さが無い活動だとそのときはできた！となるかもしれませんが、深い学び（広い意味の成長）につながりません。



私の授業では、ドラマ予告のように、意図的に課題のまとめをその授業でしないことがあります。それは、粘り強く家庭学習で考えてほしいからです。3年生の理科の授業で、活動後に「この課題のまとめを今、する？しない？」と多数決をとることがあります。ある時、3学級中1学級だけ「まとめしないでほしい！」自分で考えたいという意見が多く、持ち越しにしました。嬉しい限りです。次回持ち越し派の生徒には「粘り強さがありますね。」と褒めました。

### 3. OPP (One Page Portfolio)シート、順次実践か？・・・。

本校では、いよいよOPP A (One Page Portfolio Assessment)論 (1ページに学習ログをまとめたものを形成的評価 (=一人一人の状態を把握) していくこと) に基づいた実践が本格的に始まります。そこで用いられるのが、OPPシートです。OPPシートとは、1ページ学習ログ(履歴) がまとまったプリントのことです。OPPの最大の価値は、生徒が授業で得た「一番大事なこと (正解はない)」を短時間で書き出し、それが学習ログとして蓄積される点にあります。履歴を読み返すことで、できなかったことができるようになった「学習前と学習後」の変化がはっきりし、自己肯定感 (自分の存在や成長を認めること) が高まると講師の先生もお話されていました。

また、OPP Aは教員にとっても大きな意味をもちます。生徒のコメントを読むことで、活動のどこで学びが生まれたのか、どの場面で生徒が変容したのかを把握できるため、形成的評価 (一人一人の理解度の把握) として授業改善に活用できます。単元途中で指導計画を見直したり、次の授業展開を調整したりする材料となり、総括的評価 (通知表に表れるもの) とは異なる「次の学習 (授業) につなげる評価」として機能します。研修会でも、「教員が、伝えたいことやもっていきたい方向と、生徒の学びが同じ方向になっているかを捉える手段になる」という理解となりました。



一方で、懸念点として挙がったのが二極化です。書けない生徒には、教員が支援を行います。対話を通して「書こうとする姿勢」を育てていきます。今こそ、これまで学校全体で取り組んできた「0秒思考」で培った力を発揮するときです。教員側は、自身の授業を見直し、生徒が書きたくなる授業を目指します。OPPシートを活用し、生徒の内面を引き出していきます。

### 4. 保護者のみなさま

保護者の皆様には、家庭でもお子さんが育てていくべき5つの非認知能力 (主体性・レジリエンス・自己肯定感・自己調整力・粘り強さ) を意識した声かけをしていただけると、より効果が高まります。「今日の学習で一番大事だと思ったことは。」「前よりできるようになったことは。」「次はどんなことに挑戦したい。』といった問かけは、家庭でできる小さなサポートです。これを続けることでお子さんの成長を大きく後押しします。

理想の人間像についてお話いただき、「どんな大人になりたいか」を考えるきっかけにしてほしいと思います。家庭と学校が同じ方向を向き、お子さんの成長を共に支えていきましょう。

保護者・閲覧者アンケート  
(↑リンク先タップを)

